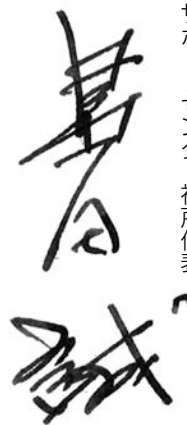


アート、それは生きる実感の共有②

アート・サポートセンター神戸代表



神戸生まれ、神戸育ち。生粋の神戸っ子である島田さん。行政にも組織にも頼らず、神戸の芸術文化を盛り立てるため、自らアイデアを練り、実践し、人びとの共感を高め、成功に導く手腕は瞠目すべきもの。そんな島田さんの固い信念と、ほとぼりするような情熱はどこに根ざすのか。

音楽に明け暮れた10代。会社勤めを経験した20代。書店、画廊経営に着手した30代。それぞれの時代の姿を追う。

(聞き手・執筆 編集委員 村岡正司)



撮影：杉浦 健
取材場所：サロンド・ルーサロメ（神戸市中央区）

■もともとから、神戸のご出身ですか。

うん。生まれは須磨です。東須磨のあたりでした。そこを神戸大空襲で焼け出されて、しばらく転々としたあと、潮見台町3丁目の洋館で暮らすようになってね。4歳から15歳くらいまでかな。いや、別にハイカラな家風でも何でもなくて、父親の会社の社宅だったんです、そこが。父親は三菱重工の勤め人でした。1軒の家を2家族でシェアしてて、うちは2階。トイレや風呂は共同で、まだ五右衛門風呂やったかなあ。でも食堂や寝室

は洋室で、大きなベランダがあつてね。高台なので、海がよく見えるんです。祖父が毎日、双眼鏡で沖行く船を眺めてましたね。

後藤正治さんの「奇跡の画家」の中にも出てきますが、父方にはスポーツ系の血が流れてて、皆スポーツマン。日曜日になると、毎週のように、近くのテニスコートでプレイしてた父の姿を覚えてますね。

ほんで、私は中学から音楽好きになって、ブラスバンドでクラリネットやっってたんです。神戸高校時代も1年のときは引き続きブラスバンド。2年からは合唱部に移った。ピアノも弾けないのに、なぜか指揮者をやってね。大学のグリークラブのときも同じで、ずっと指揮者ですわ。ええかげんなもんでねえ。理論も何もわからへん。ただ、気合いだけでやつとるような指揮者でしたけどね(笑)。だから高校時代、芸大に行こかっていう気持ちもちょっとはあつたんです。神戸高校の合唱部いったらねえ、体育会系みたいにきついんですよ。むっちゃくちゃ練習時間

①潮見台町3丁目

神戸市須磨区の町名。JR須磨駅北西部の高台に位置する。

②五右衛門風呂

槽の底に平釜を取りつけ、かまどに据えつけて、その下で薪を焚いて沸かす風呂。水面に浮かんだ底板を踏み沈めて入浴する。

③奇跡の画家

島田誠さんがその才能を見出し世に出した神戸在住の画家、石井一男さんの半生を描いた、後藤正治さんによるノンフィクション。09年12月講談社刊。

④農村セトルメント

凶作農村の抜本的救済のため、生活の担い手である農婦たちを対象に、身近な衣食住の改善策を現地教育する市民活動の一種。35(昭和10)年2月号の「婦人之友」誌上における羽仁もと子の提案に「全国友の会」及び「婦人之友」の読者が賛同し、東北6県6か所のセトルメントに対する5カ年計画の支援活動が実現した。

長いし。だから最後まで残った男は4人しかいなかった。他はみんな受験勉強のために脱落しててんです。ひとりの友達は東京藝大行きましたね。でも声楽というても、藝大行くんやったらピアノ弾けることが要求されますから、全然だめな私は早々とあきらめた。でもまあ私には母親のほうの血が流れてるんでしようねえ。

■お母様は、声楽をなさっておられたんですか。

いや、母親は専門教育は受けておらんのですが、兄弟が東京交響楽団のクラリネット奏者や、日本フィルのピオラ奏者やってたりしてましたから、母親も若いころからコーラスをやってたんです。晩年、認知症患ってからも、第九をドイツ語で歌ってました。

もうひとつ言うとね、母親は、若いときからずっとボランテアしてたんです。もちろんそんな言葉は存在してない時代ですが。父親と結婚する前、1917年生まれですから18歳のころですね。東北大飢饉^{だいききん}による被害が深刻だった秋田県最奥の生保内村^{おぼない}というところで、「農村セトルメント」^④に参加した。全国友の会からの呼びかけに共鳴して行ってたんですな。3年

もの間、そんな寒村の小屋に若い女性3人で寝泊りしながら、農村の生活指導や幼児教育などに携わってたというから、ずいぶん勇気ある行動といえます。

その後、父親と結婚してからも、「神戸友の会・神戸幼児生活団」^⑥というユニークな幼児教育機関に、土日を除いてほとんど毎日、まあ身を捧げるようにして通って、総リーダーなどを務めてました。75年に公的な任務からは退任しましたが、まあ長いことボランテアしてた人でしたわ、姉たちや私を育てながら。無私無欲というのかな、いろんなことに淡々としてて、人のために何でもやる人やったね。のちに震災のあと、身体を壊して施設に入ったとき、それを知った

人からいっぱい連絡が来て。心配だとか、一度会いに行きたいとか…。人望があつたんやなあと思いますね。

■小さいころから、そうだった活動に携わっておられるお母様を見て影響を受けられた。

まあそうねえ。母親は敬虔なクリスチャンで、そういうボランテアのリーダーをずっとやつとる人なんやなあ、つていうのは、なんとなくわかってたけど。でも、そんな母親見えてすごいなあ…つて思ってたかいうたら、そんなんは全然ないんですよ。なんかやつとるなあ、いう程度の認識だけ(笑)。

私のほうは、学生時代、ずっと音



少年期を過ごした須磨・潮見台町から海を見下ろす

⑤全国友の会

日本における女性初のジャーナリスト、羽仁もと子(1873-1957)により創刊された雑誌である「婦人友」の読者を中心として、30年に設立された団体。キリスト教精神に基づく愛と協力をモットーに、健全な家庭を育み、地域に働きかけ、よりよい社会を創ることをミッションとしている。

⑥神戸友の会・神戸幼児生活団

羽仁もと子によって39年に開校された「自由学園」の幼児教育課程(幼稚園)である「幼児生活団」の指導により、全国各地の「友の会」内に設置された。小学校入学前の3年間、団体生活と家庭生活を通して、子どもたちがよい生活習慣を身につけ、心も身体もひとり立ちできるような基礎を築くことを目的としている。現在、全国12か所の「友の会幼児生活団」と、6か所の「4才児グループ」が設置されている。

楽やとつたでしょう。それで神戸大学の経営を出て就職するときは、社会人になったらこれをやったらう、というような気持ちはとくになくてね。二、三内定もらったうちから、とりあえず三菱重工を選んだのは、安定性がある、趣味の音楽をずっとやれそうな職場だということ。それに事業所が神戸にあるので、通うのに近いからという理由からです。父親と同じ会社だ、という意識も、そうねえ：なかったねえ。高砂製鉄所に配属されたんですが、経理というなかなかハードな部門のサラリーマンをしなが



元町商店街の海文堂書店外観。海文堂ギャラリーのあった2階売り場には、現在も海事専門書が並ぶ

ら、そこでも職場の合唱団の指揮をやつとつたんです。全国コンクール出て優勝もしたし。でも上司からは、ええ加減にしとけよ島田君なあ、そんなクラブ活動みたいなもんは：なんてよく言われたねえ。練習日は定時に抜けて、終わつてからまた職場に戻つて仕事。そんな日々でした。

■音楽、美術を愛する今の島田さんの原点は、この時代の生活環境にあるといえますか。

たしかに住んでたのは西洋館やけど、いうても社宅やから、たまたまの話。母親が昔から西洋音楽に親しんでたことなんかを考えると、影響受けてないこともない。でも大体、私らの時代はね、西洋教養主義というのが蔓延してて、文学でも音楽でも美術でも何でも、疑問もなく自然に受け入れられてたんですよ。父親は出世欲もない恬淡とした人で、仕事は総務系やったんですがね。60くらいになってからバイ

オリン買ってきて弾いたり、母親が賛美歌弾くための電子オルガン持ってたのを時々鳴らしたりするんやけど、下手やなあ、思つて聴いててねえ。だから申し訳ないけど、当時、親を尊敬してたということはあんまりなかった。

ただ、今にして思えばね、大学のグリーククラブで合唱曲を選ぶときも、誰もがやる曲は気に食わない。あり物ではなく、作曲を頼んで作つてもらつて、オリジナルを初演する。そんなことを結構やつた。だから、母親から受け継いだスピリット：自分の信念のもとに行動するというスピリットが私のなかにすでに芽生えてたといえるのかもしれない。それはずっとあとになつて気づいたことなんですがね。私がかこれまで歩いて来た道をふりかえつても、やはり無私無欲で人のために動いていた母親の姿に通じるものがあるんです。生き方、考え方にどっかで共鳴してたんやろうねえ。

■書店の経営者になられた後も、そんなスピリットは発揮できましたか。

重工の平社員だった私が、義父である前社長に請われて書店経営に手を

⑦高砂製鉄所
神戸から西方50kmの高砂市荒井町に位置し、約100万平米の敷地面積をもつ三菱重工におけるエネルギープラントの最大生産拠点。62年、神戸造船所のタービン専門工場として発足した。

⑧さんちが
神戸市の中心地、三宮の地下商店街、「三宮地下街」の愛称。65年開業。神戸市の第三セクターの神戸地下街株式会社により運営されている。

⑨セスター街
神戸市中央区浪花町の三宮セスター街。三宮と元町をほぼ東西に結ぶアーケード付きの商店街。53年にアーケードが整備され、三宮最大の繁華街として発展を続けた。

⑩元町商店街
神戸元町商店街。JR元町駅南側の鯉川筋から西方1・2キロに伸びるアーケード付きの商店街。東側に続く三宮センター街や、西・南西側の神戸駅周辺とともに、神戸の市街地の中心部を形成する。海文堂書店は同商店街（元町通3丁目の南側）に位置している。

⑪ハーバーランド
神戸ハーバーランド。JR神戸駅南側に位置し、同駅と地下通路で

島田さんおすすめ
神戸の本

その2



画集 神戸百景 川西 英が愛した風景
川西英 シーズプランニング
定価 2,310 円 (本体 2,200 円 + 税 5%)
2008 年 11 月

川西 英は、「神戸百景」と題する連作を生涯2度手がけました。1933～36(昭和8～11)年にかけて制作された活気あふれる戦前の神戸の都市風景と人々の風俗を捉えた「神戸百景」と、1952(昭和27)年から制作が始まった戦後の変わりゆく神戸風景を描いた「新・神戸百景」です。この「新・神戸百景」が不思議な縁で普及版で復刻再版されることとなりました。04年に岩波書店からカラー版ジュニア新書「神戸 震災をこえてきた街ガイド」を森栗茂一さんと書かせていただき、私が持っている川西 英さんの「新・神戸百景」を表紙と各章の扉絵に使わせていただきました。その時、編集を担当して下さったシーズ・プランニングの長谷川一英さんが神戸出身で川西作品に魅せられて、その頃から、広く川西作品を紹介したいと周到に準備されてきて今回の刊行となりました。私も『「神戸百景」の時代と縁(えにし)』という文を寄せています。

(島田 誠)

染めたのが、30のときでした。当時は「さんちか」がオープンしたところで、センター街も隆盛の時代でしたが、元町商店街のほうはさびれてたんですよ。とくに3丁目から西行つたらね。まあ今でも影薄いけど、当時はもっと薄くて。6丁目に三越があったけど、ハーバーランドもないし、乙仲通とか⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿)メリケンパーク、皆なかった時代ですね。だから西のほうはストーンと活気がなくて。3丁目と4丁目の信号のところまでが境で、かろうじて元町らしかった。ただ本屋でいうとやね、皆三宮の方に寄ってて。東から、コーベックス、流泉書房、漢口堂、日東館、丸善：それにうちの海文堂の順でした。でも、さらに西の宝文館などは衰退していったので、将来への危

機感が募ってたんです。だから当時、こういう形で生き残っていくかという選択のなかで、総合書店化に向けて売り場を拡充することをまず決めました。その中で柱を、本だけでない柱をつくりたい、ということ、ひとつは児童文学のコーナーに子どもの良質なおもちゃ、北欧の木で作ったものなどを揃えて、児童コーナーを充実させる。もうひとつの柱として画廊。日曜大工で、自分で社長室を改造して、張りぼての画廊をつくったのが最初。当時、私がとくに絵が好きだったわけではないんですよ。あくまでも文学と音楽が先で、美術はそれから後の話ですわ。でも、つくったものの、私も素直でないからね。他所に教えを請いに行



くとか、そういうことは一切しなかった。でも、どうしていいかわからんから、まずは海外に買い付けに行つてね。ほ

- ⑬メリケンパーク 87年、神戸港の一部を形成するメリケン波止場と、神戸ポートタワーの建つ中突堤の間を埋め立てて造成された公園。神戸海洋博物館やホテルなどが建設され、現在では神戸港を代表する景観の一つとなっている。
- ⑭取次 出版取次。出版社と書店の間に介在する流通業者。取次と書店との関係は、問屋と小売店の関係に当たる。
- ⑮乙仲通 神戸元町商店街の南側に東西に伸びる通り。船舶売買の仲介業者、貨物受け渡しを行う仲立業者の正式名「乙種海運仲立業」を略して「乙仲」と呼ぶことにちなんで名づけられた。戦前よりこれら関係業者のオフィスの集積地であったが、震災後、事業所移転などに伴い増加した古い空きビルに雑貨店やカフェなどが入居し、レトロな町並みが若者たちの注目を集めるようになった。
- ⑯三宮 結ばれた新市街地。80年代後半～90年代前半にかけて、旧国鉄湊川貨物駅跡地を再開発して整備された。93年度には、国土交通省の都市景観100選に選定された。

んで、それを画廊に置きだした。そのうちに、いいスペースやから個展やりたい、という人たちが向こうから来るようになって。大体私の場合、向こうから集まって来るんですわ。

■それらの方策は成功したんですか。

書店という商売は、基本的にコンピュータの配本データに沿って、取次とりつきから送られてきた本を店に並べる。まあわずかに、これを入れてほしいとか、これはいらんとか言えるけど、大体は受け身の選択を迫られるんやね。そういうなかで、自分とこで置きたい本を少しずつ揃えながら、それぞれの書店の個性を出していく。でも、味付けというのは限られているわけです。「3割はこだわり、7割は売れ筋」で行くのがいいなどと、取次からよう言われたけどね。古書店ならまだしも、新刊書店の場合、けっこう難しいものがあるわけ。

うちの場合、やっぱり地域の書店でやりたい、書店らしい書店でありたい、ということを目に置いて、品揃えにこだわった。前からあった海事専門書をはじめとする各種専門書系、人文系、美術書系、それに子どもに本当に読ませたいもの。たとえば昔でい

うたら、児童書は岩波とか福音館系にするとか。コミック置くにしても、ちゃんとフィルターかけて選ぶとか。裸の写真集は置かないとか。ビデオを売れ、文具を売れ、ファンシー商品を売れなど、その時はやり物によっていろいろなセールスが来るんですよ。入り口に近いこのスペースへファンシー商品置いたら若い子がいっぱい来て、その延長で雑誌もコミックも売れるのになかなかね。そんな誘いには流されない。耳を貸さない。それでずうっとやってきた。社員にしても、採用のときに本好きかどうか聞くんですが、そんな人を選んで入ってもらってね。だから、みんなええ社員ばかりでしたよ。私の方針をわかってくれて、きちっと対応してくれました。でも今ふりかえればね。売れ筋を追わなかつたということでも生き残ってるんです。うちよりもっと立地のいい他の書店は、みんな無くなっちゃいましたからね。ジュンク堂をはじめ、神戸の書店が大形化してるなかで、海文堂だけが存続できてるいうことはね。はつきりした個性、地域の書店としての個性が残せているということなんか。売れ筋だけを追っていたら、立地がよくて、規模の大きいとこに負けるわけですから。

■ソーシャル・ビジネス的な経営方針でもあったわけですね。

いやあ、そんなんは全然意識してませんでしたよ。商売でやってる以上、儲けなね（笑）。でも、ひとついえることは、安定したサラリーマンの道を捨ててまで、書店という職業を選んだ以上、できれば自分がやりたいことに結び付けていきたい。ただ維持するため、稼ぐための仕事だけやったら意味がない。基本的にはね、自分の生き方の問題なんですよね。それをずうっと中心にすえて、私はやってきた。

そうやって好きなことを選んでやって行きながら、今なおつづれずに続けている。画廊だつて海文堂時代からレンタルスペースやらずに自主企画を貫いてきたでしょう。「アート・サポートセンター神戸」の併設もその一環やし。無名の作家の埋もれた才能を発掘して世に出し、それを社会と結びつけることにこだわってきた。全国的に見ても珍しい画廊と思うけどね。でも、そんなことをやっても続けられていくことは、本当に幸せなこと、有難いことやと思いますよ。

(続く)

PROFILE

しまだ まこと
島田 誠

1942年神戸市生まれ。神戸大学経営学部卒業。三菱重工業勤務を経て、神戸元町商店街の「海文堂書店」社長に就任。79年、店内の社長室をリニューアルしたスペースに「海文堂ギャラリー」を創設。00年よりギャラリーを北野へ移し、ハンター坂に「ギャラリー島田」を創設。「アート・サポートセンター神戸」代表。